

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	24	学校名	県立勝田高等学校						課程	全日制		学校長名			下山田 芳子			
教頭名	潮田 巧巳											事務（室）長名			椎名 実			
教職員数	教諭	14	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		0	事務職員	4	技術職員等	3	計	29	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計 クラス数					
			男	女	男	女	男	女	男	女								
	普通科				71	38	78	31			149	69	6					

2 目指す学校像

- ・心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成することに努める学校
- ・生徒の自立心を伸長し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を培うことに努める学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①心身ともに健やかで、気力に満ちた有為なリーダーとして活躍できる人財の育成 ②生徒の自立心を伸張し、公正な判断力と健全な批判力を高め、豊かな人間性を身に付けた、社会に貢献できる人財の育成 ③国際社会で活躍できる人財の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①「主体的・対話的で深い学び」を推進した教育課程による、国公立大学及び難関私立大学志望者の進路実現 ②生徒一人一人の個に応じた学習活動とキャリア教育による、就職から大学進学までの進路希

	望実現 ③生徒の多様な学習ニーズに対応した学習活動とグローバル教育による、海外大学志望者の進路実現
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 ②学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、学校行事・生徒会活動・部活動・奉仕的活動等に積極的に取り組む意欲のある生徒 ③国際的な諸問題に関心を持ち、英語等の言語の取得及び異文化交流（理解）に努める生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	・アンケートの回答割合から、生徒は概ね積極的に授業や課題に取り組んでいる様子が窺える。 ・同じく教師側においては、授業の進め方を工夫している割合は、昨年度よりもさらに改善が見られた（評価：1.50→1.55）が、引き続き改善を継続していく。	・Classi による教材配信と、対話的な課題のやりとりができる Classi Noteなどを併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。 ・引き続き ICT 機器を活用し、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努める。
進路指導	・国公立大学への現役合格者数は 18 名。国公立大・難関私立大合格数 30%以上の目標に対し 48 名合格で目標を達成できた。特に総合型選抜で難関校に 2 名の合格者が誕生し、今後も教員の学習指導・進学指導スキルを高め、後期課程へとつなげていく必要がある。	・高校 3 年間を見通した組織的・継続的な進路指導を行うとともに、探究活動・キャリア教育の充実を図る。特に、生徒の進路希望実現のために、積極的に自ら調べ探求する態度を育成する体験活動・発表等の場を用意し、生徒の取り組みを支援する。
生徒指導	・生活規律や問題行動に対して、細部にまで目を配る指導体制がより整備され、予防的・開発的な指導が行われている。特別指導を受ける生徒や、服装等で繰り返し注意を受ける生徒もほとんどいない。	・全職員の共通理解のもと、きめ細やかな指導を推進することで、道徳心の充実と規範意識の高揚を目指す。 ・交通マナーの遵守及び事故時の対応について

別紙様式 1 (高)

	・登下校時の交通事故は減少傾向にあるが、自転車の乗り方等の交通マナーや、事故時の対応に課題がある。	て、講話や集会を充実させることにより、交通事故の未然防止と交通安全に対する意識の向上を図る。
特別活動	・生徒会活動・部活動・各種委員会活動は概ね活発である。 ・学校行事も生徒が主体的に参加・運営をしている。 ・部活動加入率は 80%を超えている。	・特別活動への主体的な参加・活動をより一層促進する。 ・生徒会行事・部活動においては、新型コロナウイルス感染予防対策を取りつつ、中等教育学校と連携を取りながら弾力的な運営を行う。
幅広い働き方の実現	・令和 5 年度時間外在校等時間の「月平均時間」30 時間 16 分、「月平均 45 時間超過者割合」22.3%、「月平均 80 時間超過者割合」1.9%と、他校と比較しても高い状況にある。教職員の意識の変化や ICT の活用による業務の効率化・軽量化が進展し、1 ヶ月あたりの平均超過勤務時間が減少しつつあるが依然として課題が残る。(約 10%減)	・全教職員が 1 ヶ月あたりの超過勤務時間 45 時間以内を達成できるよう、業務の精選や ICT を活用した業務の効率化等をさらに推進する。 ・各種会議に長時間を要しているため、審議事項等の精選や運営方法の改善を図る。

5 中期的目標

- 異なる考え方やアプローチの方法が理解できる生徒の育成に努める。 - 教師の授業力を高め、学習指導の充実と生徒の学力向上を図る。 - 個に応じた学習指導を充実させ、生徒が自発的に学習に取り組み、より高い進路目標の実現を図ろうとする態度を養う。 - 生徒会活動や部活動等をより活性化させ、生徒が自主的・主体的に行動できる力を身に付けさせる。 - 道德教育や奉仕活動等を通して、規範意識の高揚と自律的な生活習慣の確立に努め、豊かな人間性や社会性を育む。 - 広報活動を充実させ、保護者や地域への情報発信に努め、地域から信頼される開かれた学校づくりを目指す。 - 教職員の共通理解のもと、協働による指導を推進し、教師と生徒の信頼関係を構築する。 - 長時間労働の改善に向けて、業務の精選及び仕事の効率化・軽量化を図り、全職員の定時退勤を目指す。 - 勝田中等教育学校との協働体制を構築し、勝田中等教育学校後期課程の体制及び組織づくりを推進する。
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 豊かな心の育成	①「挨拶」をする、「時間」を守る、「身だしなみ」を整える、ということを徹底し、規範意識の高揚を図る。 ②国際教育の充実を図り、広い視野と多様性を尊重する態度を養う。 ③奉仕的活動等への参加を積極的に推進し、豊かな人間性を養う。
2 確かな学力の涵養	④教師は授業第一をモットーに、アカデミックな雰囲気醸成に努める。 ⑤学習指導要領に基づきながら授業内容と方法について工夫改善を加え、入試に対応できる学力の育成を図る。 ⑥ICT 機器の効果的活用を推進するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善に努め、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
3 進路指導の充実	⑦高校 3 年間及び中等後期課程を見据えた組織的、継続的な進路指導体制の確立に努める。 ⑧探究活動・キャリア教育の充実を図る。 ⑨ICT 機器を利用した教材配信など新しい方策を併せ、自発的な学習習慣の定着と家庭学習の充実を目標とした学習支援を行う。 ⑩面談を充実させ、個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導を行う。
4 特別活動の活性化	⑪HR 活動や生徒会活動等をより充実させ、自主・自立の精神の高揚を図る。 ⑫道徳教育等を推進し、学校生活における様々な規則を遵守し、自他の生命を尊重する意識の高揚を図る。 ⑬キャリア・パスポート等を活用し、日々の教育活動の中で培われていく振り返る力と関連付けることへの意識付けを図る。
5 連携の強化	⑭ホームページ等を通して保護者や地域住民への情報発信を積極的に行い、本校及び

	勝田中等教育学校に対する理解と協力に努める。 ⑮教職員間の連携を深めるため、報告・連絡・相談・確認・記録の徹底を図る。 ⑯地域の小・中学校への授業参観や先進校視察などを通して、教育課程及び学校運営の在り方や授業改善などについて情報収集を図るとともに、勝田中等教育学校後期課程の体制及び組織づくりに積極的に関わり、学校運営を効率的かつ円滑に進める。 ⑰勝田中等教育学校への移行に向けて、指導体制や教育方針、特色ある取り組みをより明確にして、広く周知する。 ⑱部活動の地域移行を推進する。 ⑲グローバル教育、プログラミング、起業家精神教育における外部団体との連携を推進する。 ⑳WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業（グローバル人材育成強化事業）の推進に向けて、外部団体等との連携を図る。
6 働き方改革の実践	㉑長時間労働の改善に向けて、業務の精選及び見直しを行うとともに、ICT 機器の活用を推進し、仕事の効率化・軽量化を図ることで超過勤務時間の削減を目指す。また、積極的に休暇を取得し、心身の健康維持に努める。
7 授業改善の推進	㉒授業改善推進チームを設置し、校内研修や相互授業参観等の授業改善に向けた取組の充実を図る。 ㉓教師の研修観を転換し、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、主体的・対話的で深い学びの実現に努める。 ㉔生徒による授業満足度の評価において、肯定的な評価の割合 80%以上を目指す。